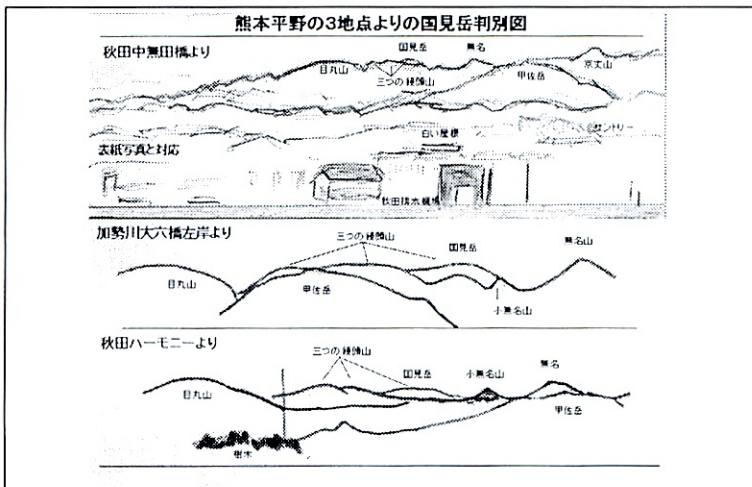


# 国見岳は熊本から見える

田村 実・森下吉郎

一昨年（2006年）から熊本県の中央山地に出かけ国見岳（1739m）とその周辺の山々に登りいろいろな知見を得ることができました。その第一報として田村は地学会誌No.144に「九州の脊梁山地（熊本県内）の山の紹介」を掲載しました。その際熊本市（熊本平野）からも国見岳は見えることを述べたのですが掲載写真の印刷が不鮮明で十分理解を得られたか疑問に感じました。それ故この度は熊本市の撮影の好ポイントを選び、国見岳を望見することに目的を絞って撮影及び調査をしました。この際森下が同行しました。九州の山々は高度が低いので特別の所を除き、樹木が茂っているので眺望がいいとは限りません。06/11/3に2回目の登山した国見岳は九州中央山地の最高峰ですが、目だった独立峰でないので熊本市からは見えていながらこれまで望見できるとの記述がなかったと理解しています。九州山地に少しなれた昨年から、周囲のどこの場所から国見岳が見えるかを先ず地図上で調べ、機上からの写真やその他多数の写真を調べて検討しました。その結果熊本市からは高いビルや甲佐岳に邪魔されなければ、良い天気なら多くの場所から見ることを確認しました。今回の発表はこのことに限

定して行いました。国見岳を探すには国見岳と熊本方面からは丸い形に見える目丸山を結んだ線と三角形の京丈山とを結んだ線に挟まれた間にあることに着目し、前山になる甲佐岳の陰になっていないか相互の位置関係を念頭において、山に近づきあるいは遠ざかって探す必要があります。国見岳は目丸山と京丈山の間が一番奥にあるので、また雲がかかりやすいので、山形がはっきりしないことがよくあります。シルエットが三つの饅頭形の山のうち右に国見岳があります。この三つの右の饅頭山もシルエットでは一つの山に見えることが多いのですがうしろの高い部分が国見岳です。良い写真機ならば見分けることができるでしょう。市内では秋津や画図などの地域からがより見易いと思います。天気がよければ金峰山地や立田山からは、低地からより位置関係をよく理解して見るができます。それらの結果は平成19年度の総会の講演会で15枚の写真と図で発表し、参加者に2枚の写真配布しましたが、ここでは講演要旨なのでそのうちの一枚の判別図を掲載します。表紙の写真と併せて理解してください。更に詳細は個別に説明しますので興味のある方は連絡してください。



三つの饅頭山、無名山、小無名山は名称が解らないのでここで便宜的に使用した。国見岳は奥まった位置にあるので、多くの場合、稜線がはっきりせず、シルエットでしか観察できないので、注意が必要である。